

会長就任のごあいさつ



公益社団法人日本語教育学会
会長 石井恵理子

このたび、2017年5月21日の理事会におきまして会長に選出されました石井恵理子です。就任に当たり、皆さまにご挨拶を申し上げます。

50年を超える歴史を持つ日本語教育学会は、近年の国内外における社会状況の変化を受けてその使命を改めて見つめ、尾崎明人会長時代の2013年3月には公益社団法人化という大きな選択をしました。その決断に至るまでの数年間においてなされた多くの検討作業や議論に私も常任理事として加わりましたが、その折に学会設立時からの経緯をご存じの諸先輩から、日本語教育学会が1977年3月に社団法人となったのは社会的事業を行う組織であることを意図したためと伺いました。改めてこれまでの学会の歩みを振り返ってみますと、日本語教育がしっかりとした学術研究の基盤を有する「日本語教育学」として確立することを目指すと同時に、教師研修や日本語教育に関する諸調査、教材開発等、日本語教育の質的向上と社会の変化に伴う新たな課題やニーズに対応すべくさまざまな事業を展開して来ています。常にその時々における日本語教育の課題を捉え、多くの学術研究・教育実践に携わる会員の力を結集し、課題の解決に資する具体的発信を行う姿勢が貫かれています。公益法人としての再出発は、これまでの歩みをさらに力強く進めていくことを改めて決意したものであると言えます。

伊東祐郎前会長のもとでまとめられた「公益社団法人日本語教育学会理念体系」では、広く多言語多文化化が進展している社会に暮らす人々への働きかけも含め、豊かな社会形成への役割を担う決意が、「人をつなぎ、社会をつくる」という標語によって力強く示されています。多くの方々が膨大な時間と労力を費やし、検討を重ねることによって構築された理念体系を、具体的なアクションとして具現化し、その実践に基づく検討を重ねていくことが、今期からの大きな仕事となります。

「人が生きるための根源的な力」であり、「人と人をつなぐ」ことばは、しかし、一方で人を分けるものともなります。日本語主流社会における日本語教育は、常にそうした危険を孕むものであることを意識することが必要でしょう。人と人のつながりが、それぞれの力となり、豊かな社会の構築を促進するためにことばが活きる、そうした日本語教育のあり方を追究することは、社会に生きる人々へのまなざしを持って多様な角度からの研究や実践からの知見を積み重ね、社会への発信となる実践を行っていくことではないかと考えます。

日本語教育学会についてもまだまだ学ばねばならないことばかりですが、理念体系によって示された学会のあるべき姿をしっかりと見据え、その実現に向けて取り組んで参ります。ご教示、ご批判、そしてご協力をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。